



今津 雄吾

勤務先：

株式会社アルファ水工コンサルタンツ

技術部環境保全室

〒063-0829 札幌市西区発寒9条14丁目516-336

TEL 011-662-3331

FAX 011-662-3408

E-mail: imazu@ahec.jp

専門：水産部門（水産土木）

自己PR：

私は、山梨県に生まれ育ち、大学の6年間は仙台で過ごし、現在の会社に入社すると同時に北海道民となって8年が経過しました。私の生活エリアは徐々に北上しており、3年前には1年間デンマークにも住んでいました。山育ちの私が、現在北海道で海に関係する仕事をしているのは、非常に不思議な感覚です。

「海」方面へ進むきっかけとなったのは、大学4年で所属研究室を決める際に、津波工学研究室を選んだことでした。当時は、奥尻島津波災害の直後で、盛んに数値計算による津波伝播・遡上の再現が行われ、綺麗なアニメーションも作成されていたこともあり、むしろコンピュータ関係の技術に興味があったことだったように思います。しかし、当時の指導教官からは、そういった近年の学生の風潮を危惧してか、日頃「まず物理現象をよく見なさい」、「何のために（誰のため）にやるのか考えなさい」という、いわば土木技術者の基本事項を耳が痛くなるほどたたき込まれました。

ところが実際に社会に出ると、解析業務が中心だったこともあり、なかなか現場を実感できず忘れがちになっていました。しかし、このような基本を、技術士の受験を通じて再認識することができました。例えば水産土木の分野では、直接の対象者は漁

業者となるわけですが、漁師さんは危険の伴う漁を通じて我々に食料を供給してくれるとともに、漁場である海的环境保全や沿岸の監視や警備などの役割も果たしています。また、漁業者のために漁港や漁場、漁村を整備することは、沿岸防災や国土の保全という観点からも重要な役割を果たしています。

今後も、Civil Engineerであることの初心を忘れず、広い視野を持って取り組んでいきたいと考えております。

ところで、話は脱線しますが、前段で少しふれたように私は1年間デンマークに滞在しておりました。デンマークは日本と同じく資本主義社会ですが、日本やアメリカなどが目指す小さな政府とは180度異なり、いわゆる福祉国家で、社会における競争があまりありません。そのため、税金が非常に高い（所得税最大50%、消費税25%）のですが、国家に対する満足度は非常に高いようです。一概にどちらの社会が良いとはなかなか言えないですが、先日のJR西日本の事故を考えたときに、1社だけの企業倫理の問題で片づけられない気がしております。

受験体験談：

今回幸運にも初受験でありながら合格することができましたが、私個人の力では到底成し得なかったと思います。昨年受験申し込みをした段階では、経験論文もまともならず、技術士としてふさわしい点も的確に捉えられておりませんでした。しかし、筆記試験までの数カ月は集中して取り組み、各種勉強会や論文添削を受ける中で、技術士としてのものの見方、論理の組み立て方を少しずつ身につけられたと思います。これもひとえに、ご指導いただいた先輩技術士の方々のおかげであり、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

技術士合格はようやく皆様と同じスタートラインに立てただけであり、今後少しでも社会への貢献や後輩育成のお役に立てるよう、自分自身の技術の向上に努めたいと思います。